

週報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ~10 時
祈 禱 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65
TEL. 042-742-1593
FAX. 042-742-1393
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計
00290-4-80707

3205 2026 年 4 月 12 日

礼 拝 式 順 序

(復活節第2主日)

司式者	井 殿 準		
奏楽者	黒田 理佳		
前 奏		奏 楽 者	
招 詞	詩編 103 : 1 ~ 5	司 式 者	
讃 美 歌	2 2 6 「輝く日を仰ぐとき」	一 同	
聖 書	ヨハネ 20 : 19 ~ 29 (新 P. 210)	司 式 者	
使徒信条	(93-4-A)	一 同	
祈 禱		司 式 者	
讃 美 歌	3 2 9 「目覚めよ、歌えよ」	一 同	
説 教	「疑う者は祈ろう」	司 式 者	
祈 禱		”	
讃 美 歌	1 9 7 「ああ主のひとみ」	一 同	
献 金		”	
主の祈り	(93-5-A)	”	
頌 栄	2 6 「グローリア、グローリア、グローリア」	”	
祝 禱		司 式 者	
答 唱	4 0 - 6 「アーメン」	一 同	
	~ 「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう~		
報 告		司 式 者	
讃 美 歌	9 2 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同	

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨
「主の復活を喜ぶには」

(マルコ 16 : 1 ~ 8)

主イエスが十字架につけられ殺されてしまってから三日目の朝、主の葬られた墓を訪ねたマリアたちは、墓が空になっていることを目撃し、「白い長い衣を着た若者」から主が復活したことを告げられるが、彼女たちはそのことを喜ぶどころか、恐ろしさのあまり震え上がり、正気を失って、その場を逃げ去った。

「主は復活なさった」といくら聞かされても、必ずしも人は喜ぶわけではない。かつての我々もそうだったのではないだろうか？ イースターを喜び祝う教会の人々の姿を見て、なんとなく嬉しい気持ちになっても、主イエスが復活をなさったことに喜びを覚えることができず、かえって「復活なんてあるのだろうか？」等と思っていたのではないだろうか。マリアたちも、「この若者は何を言っているのだろうか？」「復活など、本当にあるのだろうか？」と思ったに違いない。

「主は復活なさった」といくら聞かされても、人は喜ばない。墓が空っぽであるのを見ても、人は喜ばない。復活した主イエスと出会うという経験をしなければ、主の復活の出来事は喜びの出来事とはならない。では、我々は復活した主イエスとどこで出会うことができるのだろうか？

祈りをささげている時、不思議と心が温まる経験をすることがある。それは復活の主が我々のもとを訪れてくださったからと言えよう。また、どうして良いか分からない時、御言葉を通して、復活した主が我々の心に語りかけてくださることもあるだろう。しかし、復活の主と出会うことを通して与えられる喜びはもっと豊かな大きなものと言える。

復活の主との出会いを通して、弟子たちは主イエスが自分たちの裏切りにもかかわらず自分たちを愛して下さることを知った。生前、意味の分からなかった主の言葉を思い出しながら (ヨハネ 14 : 1 ~ 等)、弟子たちは、主の死が自分たちを天の御国に招くためであったことを知り、喜びに溢れて、殉教の死さえも厭わない者へと変えられた。我々も、この喜びにあずかるために、熱く祈り、御言葉に真摯に耳を傾け、復活の主と出会うことに努めて行こう。